

令和5年天皇誕生日祝賀レセプションにおける林肇駐英国日本国大使による挨拶（和文仮訳）

（令和5年2月7日）

御列席の皆様

本日は、数多くの素晴らしいご来賓の皆様にお目にかかることができ、心が躍るような気がします。皆様に、63歳を迎えられる天皇陛下のお誕生日をお祝いするこの祝賀行事に御参加いただき、妻共々心より御礼申し上げます。

昨年は、70年にわたり英国の伝統の継承とともに開かれた王室を主導されたエリザベス2世女王が崩御されるという大変悲しい出来事がありました。その際、日本の通例とは異なり、天皇陛下が皇后陛下と共に自ら国葬に御参列され、チャールズ3世国王陛下に心からの弔意をお伝えになりました。このことは、両国の皇室・王室間に存在する極めて深い絆と双方の国民間の繋がりの強さを改めて象徴するものであり、ヴィクトリア・メテヤードさんによる美しい両国国歌を聴きながら、この深い絆を改めて想い起こしておりました。

本日ここで、天皇陛下の益々の御健勝、我が国の皇室及び英国王室双方の御繁栄、並びに日英友好関係の更なる発展を、皆様とともに改めて祈念できれば幸いに存じます。

御列席の皆様

日英関係に目を向けると、両国はグローバルな戦略的パートナーとして、二国間協力を着実に進展させて来ました。本年は、岸田文雄総理とリシ・スナク首相が歴史あるロンドン塔において首脳会談を行うことから始まりました。両首脳が日英部隊間協力円滑化協定に署名し、長年にわたる日英関係強化の取組が実を結ぶこととなりました。両首脳は、同協定及び日英伊3か国による次期戦闘機の共同開発に関する合意を歓迎したほか、日英経済関係が常に深化を続けていることも歓迎し、英国のCPTPP加入交渉の早期妥結の実現に向けて共に取り組んでいくことを確認しました。

加えて、日英両国は、民主主義や法の支配、人権などの基本的価値を共有するパートナーです。我々は、ウクライナ情勢に関して、ロシアに対する前例のない強力な制裁措置とウクライナの人々への継続的な支援につき、一致して毅然とした対応をとっています。また、日英は、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けて共に取り組み、力や強制による一方的な現状変更の試みに対抗しています。加えて、我々は、気候変動、エネルギー危機、経済安全保障などの地球規模の課題に取り組む上でも協力しています。2023年には、日本が議長国を務めるG7や、日本が非常任理事国を務める国連安全保障理事会を通じて、両国政府がさらに協力し、国際社会を主導していくことを固く信じています。

もちろん、我々の連携は、政府間のものに限りません。本日は、日英関係を支えてくださっている多くの国会議員の方々をお迎えすることができ、大変有り難く思います。また、日英の法律家・司法関係者間の間で築かれた緊密な関係を基に、両国の最高裁判所間の交流・協力も着実に進展しております。

もちろん、こうした成果を挙げるためには、草の根の交流を通じて国民の相互理解を促進することが不

可欠な基盤となっていることは言うまでもありません。英国において社会・経済・文化活動はコロナ以前の水準に戻りつつあることを非常に喜ばしく思います。このような状況の下、クイーンズ・ギャラリーにおける日本関連の展示、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーによる舞台「となりのトトロ」の上演などの文化イベントが好評を博しました。また、昨年春以降300名以上のJETプログラム参加者が日本へ渡航し、英語教師や国際交流アドバイザーとして日本各地で活躍しています。さらに、英国人の短期滞在ビザ免除が再開されたことで、日英間の観光も着実に増えています。今後、日英間の留学・学術交流や観光客がさらに増えていくことを強く願っています。

御列席の皆様

本日は天皇誕生日祝賀行事ということで、本日多くの皆様にお集まりいただけることは貴重な機会ですので、英国で活躍する日本企業・機関のブースを御紹介したいと思います。これらは、我々の共通課題を解決するための最先端の技術や英国でのビジネス成功事例を紹介し、英国から日本への旅行者にとって魅力的な目的地や交流の場を提供するものであり、我が国の経済政策の主要テーマである、①グリーン・脱炭素、②デジタル化、③観光・交流促進という3つに焦点を当てています。御協力いただいた三菱商事、丸紅、日立レール、トヨタ、三菱重工、フジクラ、NEC、JNTO、国際交流基金及び我が国の地方自治体の関係者の皆様に、心から御礼申し上げます。

皆様におかれては、ぜひ全てのブースにお立ち寄りいただき、和食と共に、日本から届いたばかりの日本酒や日本産ワインをお楽しみいただき、多面的な角度から我が国の魅力を感じていただきたいと思います。

さらに申し上げれば、本日のレセプションは、ジャパン・ハウス・ロンドンの協力がなければ成り立ちませんでした。まさに我々が立っているこの会場が、様々な革新的手法で日本の文化の素晴らしさや地方の魅力を広めていく発信拠点です。

日英両国民がお互いの国に注目する機会はきっと数多くあるはずです。本日私から述べたような幅広い分野で、日英関係を一層強化していきたいと、引き続き皆様の御支援をお願いできれば幸いです。

御静聴ありがとうございました。

(了)